



第 2 0 回定期委員会「委員会宣言」

委員会宣言 ~~(案)~~

J R 東労組横浜地本青年部は 9 月 2 3 日、かながわ労働プラザ第 1・2 会議室において第 2 0 回定期委員会を開催し、向こう 1 年の横浜地本青年部の未来を切り開く方針を満場一致で確認した。

J R 東日本会社は、グループ経営ビジョン「変革 2 0 2 7」に基づいた「新たなジョブローテーション施策」や「現業機関における柔軟な働き方の実現について」などの各種諸施策を推し進めている。また、赤字・コロナ禍を受け J R 東日本を取り巻く情勢や今後の人口減少に伴う生産性向上の名の下、J R 東日本で働く私たち青年部員・組合員や社員の声に耳を傾けず、2 年連続の赤字決算をなんとしてでも黒字化とするために、会社は経営の論理を私たち「労働者」に一方向的に押しつけてきている。過度なマイプロや委員会活動といったインフォーマル活動や新たに解禁された副業は、心身共にゆとりを失くし、社員の安全、ひいてはお客さまの安全をも脅かしかねないものであるならば断固反対しなければならない。また、鉄道輸送の最大の使命は紛れもなく安全であり、業務の融合、兼務・連携などによって本来業務の垣根が見えにくくなっていても、その使命が揺らぐことはあってはならない。「変革」の本当のねらいは「社員の意識変革」である。会社が求めている多能な社員という玉虫色の甘い言葉に乗せられては鉄道の専門性が失われ、安全が蔑ろにされ、いつしかそれが当たり前になってしまう。利益優先の会社体質には断固として声を上げ、安全・健康・ゆとり・働きがい、そして安心して働ける職場を守るためにたたかおう！

しかし、声を上げるには数の力がなくてはならない。J R 東労組はいま、岐路に立たされている。未だ会社による利益誘導や脱退懲罰による組合員の離脱が後を絶たず、組合員数は減少を続けている。さらには、鎌倉車両センターにおける不当労働行為や、小田原・伊豆統括センターにおける過半数代表者選での不適切な事象が発生していることに現れているように、会社は全く反省の色を示さないどころか、J R 東労組への嫌悪感を剥き出しにして「J R 東労組=悪」の構図を描き続けている。私たちは、会社の一時の利益誘導に惑わされず「自分は労働者である」という認識に改めて立ち返り、自分にとっての J R 東労組を確定させ、自分の考えを堂々と貫いて会社の理不尽な攻撃に立ち向かっていこう。そして同時に、ブレない己と仲間をさらに強化し、1 万人組織の実現に向けて、全青年部員で実践していこう！！

ロシアによるウクライナ侵攻から半年が経過した。私たちは改めてロシアによる軍事侵攻を非難するとともに、いかなる戦争やテロにも反対する。これは右や左といった短絡的な考えではなく、人が人を殺し合うという行為に対しての反対である。戦争に正義など存在しないし、命を危険にさらされるのはいつも弱い立場の人間である。だからこそ、私たち弱い立場の労働者の集まりである J R 東労組から改めて平和の狼煙をあげ、平和の尊さを訴えていこうではないか！

以上、宣言する

2 0 2 2 年 9 月 2 3 日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部青年部
第 2 0 回定期委員会

青年部から議論し 1 万人組織に向けて実践しよう！